

## 富士通総合質量技術（無錫）実験所 品質セミナーを開催 環境規制や製品評価など解説

部品の信頼性評価や故障解析などを手がける富士通クオリティ・ラボの合作実験所、富士通総合質量技術（無錫）実験所が7月28日、江蘇省無錫市内で製品品質に関するセミナーを開催した。環境規制や製品の信頼性評価・故障解析、輸入商品の検査検疫体制などを紹介。電機・機械部品メーカーの品質管理担当者ら約40人が参加し、交流会も行った。

セミナーは「中国における部品・製品の評価、不良解析、環境分析及び中国輸出入における品質認証に関する製品品質保証セミナー」。冒頭、同実験所所長で工学博士の亀原伸男氏が「中国における部品・製品の不良解析、環境分析、環境対策」と題して講演した。中国の電子情報製品汚染管理弁法、RoHS指令、REACH（欧州化学物質規制）、PFOS（有機系フッ素化合物）規制といった環境規制の動向について紹介。燃焼事故の原因分析やシックスシグマ分析、電機・機械製品に使用する接着剤の評価について、事例を交えながら説明した。

次に、富士通クオリティ・ラボの信頼性評価事業部ディレクターの川本修氏が「部品調達、新製品開発における品質、信頼性評価」と題して講演し、富士通グループにおける品質保証の考え方を紹介した。製品の保証年数に見合った試験条件を設定することが重要と指摘。PT基板やウイスカ、LSI、電源ユニットなどの信頼性評価、故障解析について、過去の事例を挙げながら解説した。

最後に、無錫出入境検疫局の機電處處長の高英姿氏が「輸入商品検査監督の基本概念」と題し、輸入製品に対する検査・検疫体制や契約書に明記すべき



品質管理担当者らが熱心に耳を傾けた。注意事項などについて説明した。生産設備が輸入後に稼働できなかったことで海外企業から損害賠償金を獲得した無錫企業の例も紹介した。

同実験所は富士通の100%子会社、富士通クオリティ・ラボが今年3月10日、無錫出入境検疫局と共同で設立した。製品検査、品質検査、信頼性評価、材料分析、環境分析、教育訓練、コンサルティングを手がけ、電機・機械部品メーカーの品質、信頼性向上を支援している。また、今年1月には同省蘇州に全額出資の現地法人、富士通総合質量技術（蘇州）有限公司を設立しており、電機・機械部品関連の監査業務を中心に品質保証サービスや環境管理・分析サービスを提供している。

（TEL：0510-8821-9802）